



大里農林振興 センターだより

発行 埼玉県大里農林振興センター
熊谷市久保島1373-1
TEL 048-523-2812 FAX 048-526-2494
E-mail k232812@pref.saitama.lg.jp



第8号

コバトン

平成30年度飼料用米多収日本一関東農政局長賞授与式が行われました

飼料用米多収日本一とは、飼料用米の10aあたりの収量（単収）が高い農家の中でも、特に先進的で他の模範となる農家を表彰する農林水産省主催のコンテストです。

このたび、寄居町の高橋徳太郎さん・喜徳さんが「関東農政局長賞」を受賞され、4月18日、当センターで授与式が行われました。

高橋さんは息子の喜徳さんとともに、米と花きの複合経営を行い、飼料用米については、「夢あおば」を約9.1ha栽培しています。尿素的葉面散布による苗の初期生育の促進、鶏糞たい肥の適正施肥や疎植による分けつ促進等の栽培技術の向上に取り組み、604kg/10aの単収を確保しました。これは地域の平均単収と比べて172kgも増収した結果となり、高い評価を得ました。

高橋さんは「今回の受賞を機に、更に品種や施肥方法等の研究を行い、これからも飼料用米生産に取り組んでいきたい」と今後に向けた意気込みを話しました。



高橋徳太郎さん（写真左）と喜徳さん（写真右）

もくじ

- 表紙 ● 平成30年度飼料用米多収日本一関東農政局長賞授与式が行われました
- 2 P ● 埼玉野菜プレミアム産地づくり支援事業のご案内
● 道の駅はなぞのに「FARMY CAFE ~Curry stand~」がオープン
- 3 P ● 花き技術・経営コンクールで農林水産省生産局長賞受賞！
● 熊谷市で「野菜経営入門研修会」を始めました
- 4 P ● ねぎの黒腐菌核病対策には体系防除を！
● 令和元年産麦類の作柄概況と今後の対策
- 5 P ● 6次産業化に取り組んでみませんか？
- 6 P ● 埼玉県農業大学校で営農スキルを学びませんか
- 7 P ● 県営農業農村整備事業実施地区の紹介
- 8 P ● 大里地域に農業用水を供給する六堰頭首工

大里農林振興センターのホームページに同じ内容で掲載しております
ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0906> 年2回発行（3、9月）

埼玉野菜プレミアム産地づくり支援事業のご案内

1 事業の目的

本県では野菜の生産が盛んですが、他の産地同様、生産農家の高齢化等による生産力の低下が危惧されています。

一方、消費者のライフスタイルの変化等から生食用野菜の消費が低迷する中、加工・業務用野菜のニーズは高まっています。

このため、農地の集約化による野菜生産の規模拡大や露地野菜産地の構造改革を進めることを目的に、今年度から埼玉野菜プレミアム産地づくり支援事業が始まりました。

2 対象品目

ねぎ、キャベツ、たまねぎ、ブロッコリー、えだまめ、はくさい、にんじん等の12品目

3 補助対象

- (1)生産施設(育苗用パイプハウス、保冷庫等)
- (2)機械(播種機、移植機、収穫機、調製機等)

4 事業実施主体

- ・農業を営む法人
- ・JA出資型法人
- ・法人化を目指している認定農業者など

5 主な採択要件

採択に当たっては、① 対象作目の作付拡大面積がより大きいこと、② 対象作目を加工・業務用に栽培すること、③ 農地の借入れ等を農地中間管理事業等によって行うこと、④ GAPに取り組んでいることが重視され、これらの取組度合いが高いものほど優先的に採択されます。

6 その他

詳しくは当センター管理部の地域支援担当までお問い合わせください。

(☎048-523-2812)



栽培用機械導入の例（ねぎの場合）

道の駅はなぞのに「FARMY CAFE ～Curry stand～」がオープン

道の駅はなぞのに“深谷の野菜を召し上がれ”をコンセプトとしたカフェ「FARMY CAFE ～Curry stand～」が4月にオープンしました。

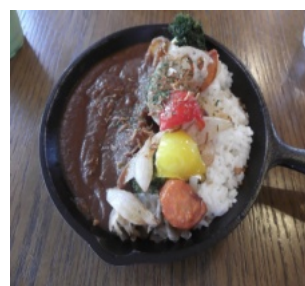
「FARMY CAFE ～Curry stand～」では、地元農家さん自慢のお米やうま味の詰まったトマト、丹精込めて作られた豆腐、もやし、長ネギなど深谷産の素材にこだわり、様々な野菜をふんだんに使ったカレーやスムージー、デザートなどを提供しています。特にオススメなのは、

「季節の野菜カレー」
（税込み890円
※令和元年9月現在）
です。その季節の旬の野菜をふんだんに使った、見た

目もカラフルでとてもヘルシーなカレーです。

野菜は大きめにカットされているので色鮮やかで、野菜のおいしさを十分に味わえます。

営業時間は9：00から18：00までで、不定休です。（電話048-598-4879）お近くにいらした際はぜひ立ち寄ってみてください。



季節の野菜カレー 5月（左）と8月（右）撮影

花き技術・経営コンクールで農林水産省生産局長賞受賞！

第28回花の国づくり共励会 花き技術・経営コンクールにおいて、深谷市でグランドカバープランツの生産を行っている清水園芸（経営主：清水秀一氏）が農林水産省生産局長賞を受賞しました。

このコンクールは、一般社団法人日本花普及センターが主催し、花きにおける生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的に全国から技術・経営に優れた花き経営者が選出されるものです。

清水園芸は、グランドカバープランツ苗(地面を被うように広がる草丈の低い植物、地被植物)を生産しています。中心となるヘデラ、キツタ、テイカカズラ等は、建物の屋上など人工的な構造物を緑化する特殊緑化用の植物として特に壁面の緑化に利用されています。

清水氏は、造園緑化業者のニーズに合わせた独創的な生産技術の開発、受託生産や地域内分業の構築などによる効率的・高品質な苗供給、

経費を抑えた販売体制などが高く評価されました。さらに携わった壁面緑化では、企画・設計段階から参画するなど施工業者から信頼を得ています。

2020東京オリンピック・パラリンピック開催で高層ビルの建設やリノベーションにより壁面緑化の需要はますます高まってきており、今後の活躍が期待されます。



受賞後の記念撮影
(中央、左：清水夫妻)



つるを1.8mに伸ばした独創的な出荷規格の苗生産

熊谷市で「野菜経営入門研修会」を始めました

令和元年7月9日(火)、熊谷市と共催で、就農間もない露地野菜経営の農業者（20～40歳代）を対象に、「第1回野菜経営入門研修会」を当センターで開催しました。

熊谷市では、給付金等を活用し新規に農業を始める農業者が近年増えています。しかしながら農業者間の情報交換の場は少なく、営農や栽培に関する技術を習得する機会は限られています。そこで、経営力や栽培技術の習得と相互の交流が進むよう研修会を開催しました。

当日は、センター職員が講師を務め、「管内農業に学ぶこれからの野菜経営について」と題した管内農業の概要や露地野菜経営を効率的に行うポイント等と、「秋野菜の栽培管理について」の講義を実施し、10人の参加者がありました。

続いて、2班に分かれて「普段の情報収集方法」「経営の目指す方向や課題」等について意見交換を行いました。

最初、参加者の表情も緊張で硬かったのですが、研修が進むにつれ笑顔になり、全員から「勉強になった」「今後も研修会を開催してほしい」との要望がありました。

今後は、先進農家の見学など、年4回ほど、研修会を行う予定です。



分科会での意見交換

ねぎの黒腐菌核病対策には体系防除を！

ねぎの黒腐菌核病は、一度発生すると菌核は5年以上も土中で生存する難防除病害で、昨年は管内全域で多発し大きな問題となりました。薬剤による防除だけでは効果が得にくく、被覆処理による土壌消毒やねぎ以外の野菜との輪作など、体系的な防除が必要になります。

1 病原菌の特徴と黒腐菌核病の症状

- ①カビの一種で生育適温は15～20℃（25℃以上は発病しにくい）。被害部にゴマ粒大の黒い菌核が多量に形成します。
- ②発生初期は葉先枯れ症状で、外葉の黄化、株のしおれから生育不良となり、次第に全体が

萎縮して黄白色化し、激しい場合には株が枯死します。

2 これからできる防除のポイント

- ①下図の農薬処理例を参考に、菌の生育適温に合わせた防除を行いましょう。

【防除例】

- 1回目：平均気温が20℃を下回る時期
- 2回目：1回目の1か月程度あと
- ②台風等の豪雨時の排水対策を徹底しましょう。
- ③被害残渣は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処理します。

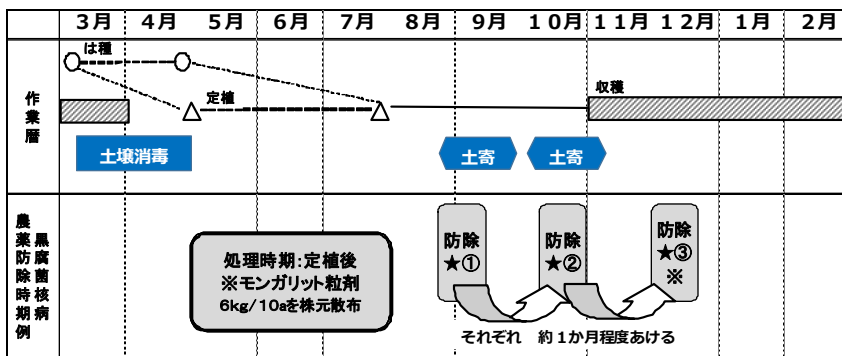


表 黒腐菌核病 農薬例 【登録内容は、令和元年8月7日現在】

作用機構分類 (FRAC コト)	農薬名	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	散布液量
3(G1)	モンガリット粒剤	株元散布	生育期 (たがし収穫14日前まで)	3回以内	—
7(C2)	ハレート20フロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	300リットル/10a
	アフェットフロアブル	株元灌注	生育期 (たがし収穫14日前まで)	2回以内	1リットル/m ²
12(E2)	セビアフロアブル20	散布	収穫前日まで	3回以内	300リットル/10a

【注意】★防除①～③の農薬は、右表の黒腐菌核病 農薬例を参考に選ぶ。 ※年明け収穫の場合

図 ねぎ生育期における黒腐菌核病防除の農薬処理例

農薬を使用する際は必ずラベルを確認し飛散防止に努めましょう。

令和元年産麦類の作柄概況と今後の対策

1 作柄概況

令和元年産麦類の播種作業は、好天に恵まれたことから順調に進捗し、出芽苗立ちは良好で、初期生育は順調でした。しかし、12月～2月中旬にかけて気温は高めでしたが降水量が少なかったため、生育の停滞がみられました。

小麦では、2月下旬以降の降雨により、分けつの発生が増加し、生育量が多くなりました。管内の生育診断ほ（11/13播種さとのそら）では、出穂期は概ね平年並みの4月16日となりました。5月は高温・多照でしたが、定期的な降雨があったため、登熟は順調に進みました。収穫は平年並みの6月上旬から始まり、収量は多収傾向となりました。生育診断ほの収量も平年の112%と多収でした。収穫時期にたびた

び降雨に見まわれましたが、品質に大きな影響はありませんでした。

大麦では、分けつの発生が活発な時期が少雨であった影響で、生育が抑制され有効穂数も減少しました。また、3月下旬から4月上旬の穂ばらみ期に凍霜害が発生し、小穂凍死が見られました。出穂期は平年よりも早まり、さらに5月の高温・多照で急速に登熟が進んだことから、細粒が多く、収量は低収となりました。

2 今後の対策

近年、高温や乾燥、まとまった降雨など極端な気象に見まわれ、作柄が不安定になりやすくなっています。安定した収量や品質を確保するためには、土づくり、適期播種、湿害対策など、基本技術の励行が重要です。

6次産業化に取り組んでみませんか？

管内の6次産業化新商品紹介

当センター管内では、6次産業化商品開発が盛んに行われています。

今回は、女性の活躍を促進して新商品開発や販路開拓を支援する「農業版ウーマノミクス事業（新商品等開発支援事業）」に取り組んで開発された6次産業化商品の一例を紹介します。

★ 平成29年度事業による支援商品



極み干し芋 (TATAGREEN株式会社)

甘みの乗ったサツマイモをじっくり焼いて、干し芋に加工したものです。TATA直営店舗で販売しています。



ネギドレッシング (株式会社ナチュラルテイスト)

摘新鮮な深谷ネギをたっぷり使ったオリジナル「食べる」ドレッシングです。道の駅はなぞのなどで販売しています。

埼玉県ではその他に、ネットワークミーティング（加工流通業者とのマッチング機会の提供）や、農商工連携フェア（6次産業化商品の展示会）などを通じ、6次産業化への取組を支援しています。6次産業化により、自分の農産物に付加価値をつけて経営発展を目指そうとお考えの方は、当センターにお声がけください。

6次産業化研修会を開催しました

（7月23日 大里農林振興センターにて）

当センターでは、茨城県つくば市の株式会社オリジネスの田野島万由子先生を講師に迎え、農産物のドライ加工方法の研修会を開催し、28人の農家や商工業者等が参加しました。研修会ではドライ加工の基本を学んだほか、オリジネスで加工したドライフルーツやドライベジタブルを試食しながら情報交換を行いました。参加者からは「ドライ加工について今後検討してみたい」などの感想が聞かれました。



古代もち麦 (ゆたか農場)

もち性大麦を押し麦に加工して天日乾燥したものです。JAくまがやふれあいセンター妻沼店などで販売しています。



いちご畑 (株式会社いちご畑)

摘みたていちごを丸ごと冷凍して、削った新食感スイーツです。JA花園農産物直売所店頭キッチンカーなどで販売しています。

ミックスベリージャム

(有)埼玉林業種苗農園

自家栽培のブルーベリー、ラズベリーとストロベリーをミックスしたオリジナルジャムです。JA花園農産物直売所などで販売しています。



★ 平成30年度事業による支援商品



花咲くピクルス

(株式会社マルシェドミュキ)

かわいくカットした各種野菜が入ったピクルスです。道の駅はなぞのなどで販売しています。



さかたさんちのトマトサイダー (さかた園芸)

完熟桃太郎トマト果汁が入った新感覚クラフトサイダーです。JAくまがやふれあいセンター箱田店などで販売しています。

埼玉県農業大学校で営農スキルを学びませんか

1 令和2年度 学生募集のお知らせ

ご家族の中で就農をお考えの方がいらしたら、農業実践力を養える埼玉県農業大学校（以下大学校）で営農スキルを学んでみませんか。

同校は、未来を担う優れた農業者や関連産業の担い手を育成するために設置している学校です。昭和20年に埼玉県農民道場として開校以来、多くの人材を本県農業の担い手として輩出してきました。

平成27年に熊谷市に移転し、更にカリキュラムを充実させています。

農業の生産から加工、流通、販売、消費まで一貫した学習を行うほか、各種資格・免許取得の機会が得られます。

入学願書などの出願書類は当センターの他、大学校及び県農林部農業支援課でも入手できます。

また大学校ホームページからも、出願書類等のデータをダウンロードできます。

大学校ホームページアドレス

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0921/>

募集人員及び、出願期間、入試日程等は、下表のとおりです。詳しくは、当センター農業支援部までお問い合わせください。

（電話：048-526-2210）

2 活躍している大学校卒業生

当センター管内には、多くの大学校卒業生が活躍しています。

深谷市内で平成26年に就農した中野^{ひろお}紘於さんもその1人です。中野さんは、大学校卒業後、自宅の施設きゅうりとねぎの経営に就農し、現在、父・母と3人で営農しています。



中野紘於さん（キュウリハウスにて）

「大学校では、農業の基礎的な知識が身についたばかりでなく、危険物取扱者やフォークリフト、大型特殊自動車・けん引免許（農耕車限定）など、多くの資格や免許が取得でき、現在の農業経営に役立ってます」

また、「埼玉県全域に多くの農業関係の友人ができたことや、恩師である県職員と知り合えたことが財産になっています」とお話しただけでした。

中野さんは就農後、ふかや4Hクラブなどにも加入し、地域活動にも積極的です。

ふかや4Hクラブでは、深谷野菜のPRや、地域で問題となっているねぎの病害防除対策など、営農上の課題解決に向けて、メンバーと共同で研究しています。

「自宅の施設きゅうりでは、環境制御について勉強し、二酸化炭素発生装置を導入して収量向上を目指していきたい」と抱負を語ってくれました。

※ 短期農業学科は1年課程、他は2年課程

農業大学校募集人員及び入試日程

学科(専攻名)	定員	出願期間	試験日	合格発表
野菜(施設栽培・露地栽培)	30名	前期：R1.11.6(水)～11.18(月)	R1.11.28(木)	R1.12.10(火)
水田複合(水田複合)	5名			
花植木(花き・植木造園)	15名	後期：R2.1.6(月)～1.15(水)	R2.1.24(金)	R2.1.31(金)
酪農(酪農)	5名			
短期農業(短期野菜・有機農業)	35名			

県営農業農村整備事業実施地区の紹介

ほ場整備事業（経営体育成型） 池上地区

池上地区は、熊谷市東部に位置し、地区内に行田市の飛地が点在する平坦な水田地帯で、地区の西側には国道17号熊谷バイパスが走り、中央部に国道125号バイパスが横断している地区です。

地区内の農地は古代の条理遺跡の遺構を残し、10a～25aの不整形な小区画で、ほ場内の用・排水路は土水路で未整備であることから、用水の適正な配分や排水に支障をきたしています。

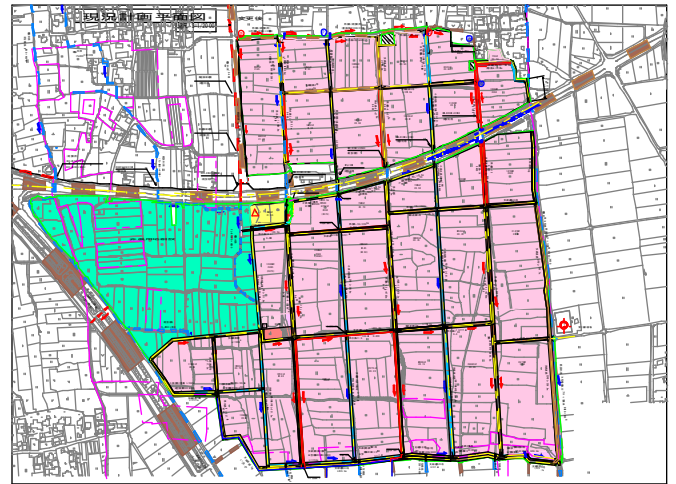
また、道路は狭く区画に沿って蛇行しており、現在の耕作条件では効率的な営農や農地集積が進まない状況です。

そこで、担い手への農地集積や農業の生産性の向上を図るため、ほ場整備工事49.8haを平成30年度から実施しております。

工事の進捗は、平成30年度末までに13.9haの工事を終え、進捗は30.1%となっています。令和元年度の工事は、令和元年9月から19.6haの工事に着手し、完了は令和2年3月を予定しており、進捗は68.0%まで進む予定です。

また、本地区では農地中間管理事業を活用して、整備された農地を担い手がまとまりある形で営農できるよう計画しています。

今後は令和4年度の事業完了に向け、地元土地改良区と一丸となって、ほ場整備工事の進捗と換地の調整、農地中間管理事業との連携を図りながら推進して行きます。



現況計画平面図



現況航空写真

工事前（H30.10撮影）



- ・耕作道が狭く、不整形な農地で作業効率の悪い農地

工事後（R1.5撮影）



- ・区画が大きく、集約しやすい農地に
- ・大型農業機械での作業が可能に

大里地域に農業用水を供給する六堰頭首工

六堰頭首工は、主に水稻を育てるため一級河川荒川から取水し、熊谷市をはじめ深谷市・行田市・鴻巣市の水田3,820haに「農業用水」を供給しています。

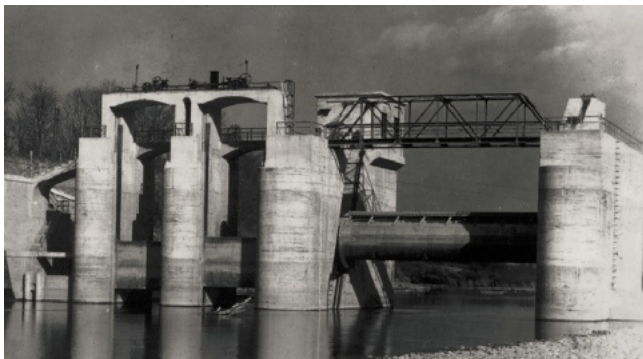
この地域の農業用水の歴史は古く、徳川家康の江戸周辺穀倉開発によって、慶長7年（西暦1602年）に熊谷市と深谷市（旧川本町）の境界付近の荒川に「奈良堰」を築造したのが始まりと言われています。その後十数年間で、荒川の左岸・下流に向かって「玉井堰」、「大麻生堰」、「成田堰」が、右岸には「御正堰」、「吉見堰」（万吉堰とも呼ばれています）の6ヶ所の堰が造られました。

これら6ヶ所の堰から取水する用水を総称して「大里用水」と呼ばれています。

荒川はその名が示すとおり河況係数が大きく、日照りが続くと極端に水量が減少するため、下流に位置する堰では取水不能となり、上・下流農民の間での「水争い」が絶えませんでした。

また、大雨の際にはたちまち洪水が発生し、簡素な造りだった堰は押し流されて、度々、造り直す苦難を強いられていました。

これら長年の課題を解消するため、昭和14年（1939年）に深谷市（旧花園町）永田地先に六つの堰を統合した「六堰頭首工」（永田堰）が建設されました。



▲旧六堰頭首工

建設から約60年経ち「六堰頭首工」や「江南サイフォン」（荒川左岸から右岸へ用水を送る地下水路）は、荒川の河床低下や施設の老朽化も進み、洪水で流失する危険がありました。

そこで、国・県・地元市町村・土地改良区等が協議し、新しい六堰頭首工を整備することになり、農林水産省が事業主体となって平成6年から「国営大里総合農地防災事業」として、関連施設も含めた工事が始められました。

2代目「六堰頭首工」は、平成15年3月に旧六堰頭首工から約100m下流の位置に完成しましたが、その維持・管理を埼玉県が行っており、安定した農業用水を地域に供給しようと日夜努力しています。

その結果、大里地域が県内有数の農業生産地の座を維持しているとともに、六堰から取水した用水は、熊谷市内を流れる「星川のせせらぎ水路」にも活用されており、熊谷市民の「憩い・安らぎ」にも寄与しています。

小学校の副読本にも記載されており、校外学習としての施設見学にも対応しています。

また、頭首工の役割や誕生の歴史などに興味がある方は、どなたでもぜひお越しください。



▲現在の六堰頭首工



▲小学生による施設見学

（連絡先）六堰頭首工管理所

深谷市永田3-5 TEL 048-579-2640